

2020 年 7 月 10 日

2020～2021 年度

第 10 回 日本ライオンズ・アラート委員会【WEB】議事録

日 時：2020 年 7 月 10 日（金）13：30～16：10

場 所：ウェブ会議（オムニジョイン・システム）

欠席者：MD332 アラート委員 L・久保田善九郎

小林委員長遅延のため、柿原アドバイザーより、まずは 337 班長青木 L、336 班長藤井 L へ現地視察と打ち合わせ、情報収集へのお礼の挨拶と、本日の議事進行、概要説明がなされ、出席者の確認を行い議事録は MD332 班長の L・山下里美が指名された。

〈議題〉

1. 今回の災害の名称として、『令和 2 年 7 月豪雨災害緊急支援対策会議』と命名した
2. 柿原アドバイザーよりアラート委員会の取り組み・ガイドラインの再認識と、今回の豪雨災害はレベル 3 と判断し、全国 LC 一丸となり取り組まなければならないことから、本日の会議決定事項を即刻、各複合地区議長に報告する
3. 今回の目的として、1・被災地（被災クラブ）の状況把握、被災地支援及び受援体制の確立。2・被災地域における社会福祉協議会（ボランティアセンター）との連携と後方支援の構築。3・地区ガバナーとアラート委員長が中心となり日本ライオンズ・アラート委員会と密な連携を図り被災地支援ができる組織体制の構築。を目的に小林委員長により指名された MD337 班長 L・青木、MD336 班長 L・藤井の 2 名により現地に足を運んでいただいた。現地調査報告について、【熊本南部豪雨に係るアラートチームによる初期サポート報告】がなされ、一般社団法人日本ライオンズ・アラート委員会の取り組みの再確認と、現地への活動状況概要説明がなされた。
4. 活動報告内容は、7 月 6 日（月）より行われ人吉市入り、熊本県社協を通じ人吉市社協とライオンズとの協議依頼を行い、高田 2 副と合流し、被災状況を確認、人吉 LC メンバーが被災、免田・錦 LC が支援及び受援を行うことを確約した。その後人吉市災害ボ

ランティアセンター第 1 回打ち合せ会議に出席し、全社協との災害協定の内容を説明し、ボラセン会場に LC ブース設置を合意し、また、高田 2 福と共にライオンズ用集積所交渉が行われた。

5. 7 月 7 日（火）337E 地区キャビネット事務局において第 1 回アラート委員会会議が行われ、アラート委員会組織図の確認と、337E 全域から交代で協力要請と 336 班長 L・藤井が支援物資の運搬用に 2tトラック 10 台、軽トラック 20 台の要請を行った。同日高田ガバナーと共に人吉市被災地視察に同行。
6. 7Z 芦北町に入り状況確認、芦北 LC メンバー被災により、芦北 LC と水俣 LC が支援及び受援を行う、同日芦北 LC 会長、幹事、水俣 LC 会長と共に芦北町社協を訪問し、ライオンズによる後方支援及びボラセン会場に LC ブース設置を合意した。また、支援物資用集積所の確認を行った。
7. 7 月 8 日（水）8Z 八代市入り、八代球磨川 LC 堀口地区 GMT 委員長より状況確認、メンバー被災、八代球磨川 LC が支援及び受援を行う、同八代市社協を訪問し、八代球磨川 LC による後方支援及びボラセン会場に LC ブース設置を合意した、ボラセン予定地を視察し、来週早々にボラセンを立ち上げる情報の情報を入手。
8. 同日人吉市に入り免田 LC メンバーと人吉市災害ボランティアセンター設置計画会議に出席し、協議、すでに地元の JC より支援物資が搬入されていることを確認。
9. 7 月 9 日（木）高野ガバナーより物資の円滑な供給ができるよう各被災地に物資担当者を備え LINE グループを作成するとの連絡を受けるとともに、7 月 7 日の会議の時に、LCIF より 10,000 ドルの被災地支援金の決定がなされ、337E 地区アラート委員会の組織の取り組みがスムーズに行われている証と確認した。
10. 本日付で引き続き大雨災害は熊本県・鹿児島県をはじめに発生したものの日本全国に広がり拡大しているような状況で、各地区災害があった MD337 アラート委員 L・二場、MD334 班長 L・西村より被害状況の報告がなされ、現在も進行形であることに予断を許さない状況であることを確認し、複合地区で準地区の災害状況を把握し、日本ライオンズ・アラート委員会と共に共有し、支援の策定を決める。また、337A 地区は支援の段取りを進めており、他地区は順次。
11. 西日本統括リーダー L・坂本、今後の対応として、九州地方は広範囲な災害のため、武雄 LC クラブ所属 L・石永を MD337 班長 L・青木のサポート役をお願いし、積極的

に情報収集に取り組んでいただきたいことと、それぞれのガバナーを中心に対策本部を作り、支援体制を整えてもらうのが理想と考えております。

12. 被災地には支援物資に関して的確な情報体制をとり、支援物資がダブつきにならないよう注意しなければならない、受け入れ拠点に何がどれだけ、数量や日時をはっきりさせることが大切です。
13. 第2の提案として、カウンターパートナー方式という方法がある、どの地区がどの地区に支援をするかをあらかじめ決めておく事が大事かと。
14. 遠いところからの支援物資は時間がかかりタイムラグが発生するのでは？
15. 支援金は、指定、無指定で集めていただき、指定の分に関しては速やかにその指定された地区に送金し、無指定の分に関してはその被災地域の状況を確認しながら支援の対象としたらよいのではないか。支援金はなんにでも変化する事ができ、被災地での購入にも充てられる。
16. 日本ライオンズ・アラート委員会として、各 MD 議長に対し何をどれだけ送っていただきたいのか、発信してはどうだろうか？
17. 各 MD 単位で物資の一覧表を作成申告してもらい（支援物資のリスト）それを日本ライオンズ・アラート委員会で振り分けし、被災地地区へ送ることは出来ないだろうか？（物資のコントロール）
18. 337A は受援体制が整ったのち、ニーズを把握し、支援物資を一か所に集積し、振り分けて被災地域に充てる。
19. 日本ライオンズ・アラート委員会がリストを作成し、各 MD へ要請することが必要ではないか。
20. 被災地より支援物資のリストを作成してもらい、それを日本ライオンズ・アラート委員会が集約し、各 MD へ要請した方がよいのでは。
21. 日本ライオンズ・アラート委員会であらかじめ災害支援物資としてライオンズホームページにのせ、準地区でできる範囲で準備をしていただいて、それをリアルタイムで見られるようにして、それを日本ライオンズ・アラート委員会でどこに何を送るか決めた

らよいのでは。

22. ホームページに上げるのは時間が足りないのでは？
23. 被災地域より要望をもらった上で、各 MD 議長に要望したらよいのでは？
24. 支援物資の運搬はどうするのか？
25. 基本運送会社で送る方法しかないと思われます。
26. 被災地へ向けての運送は道路の寸断や渋滞などで、何日かかるか分かりません。
27. 即時対応できるよう、運送会社とライオンズで協定を結んだらどうだろうか？
28. 335B では運送班があり、被災地 LC とリレー方式で手渡すことができることを構築しています。
29. ラインなどを使って、被災地より必要な物資を上げてもらい随時要請してはいかがか。
30. 337E 高野ガバナー及び長野県からはすでに要望が来ています、日本ライオンズ・アラート委員会で拾い上げ、情報を発信することが大事では？
31. 以上、様々なご意見が WEB 会議で発言されました、日本ライオンズ・アラート委員会では今後の取り組みとして、令和 2 年 7 月豪雨は未だ日本各地で災害発生のおそれではあるが、337E 地区被災地の受け入れ態勢が整っている地域、337 複合地区と連携し、必要となる物資、数量を日本ライオンズ・アラート委員会と共に共有し、各 MD へ要望、各 MD より準地区へ要請していただき、準地区、各クラブへと言う流れを構築し、出来る支援を各クラブから準地区へ、準地区から各 MD へ報告され、どれだけの支援が可能か複合地区は集約していただき、MD 班長がその情報を共有し、被災地への橋渡しの役割を担うことが日本ライオンズ・アラート委員会としての役割ではないのでしょうか。
32. 緊急災害支援金についての作業は、日本ライオンズ・アラート委員会は一般社団法人日本ライオンズ理事会において、決議了承を得たのち、各 MD 議長へ要請を行い、各準地区へと要請し、各クラブへ協力要請とする。

33. 準地区は、各クラブより、指定・無指定の判断の集約の取りまとめを行い、日本ライオンズ・アラート緊急支援金指定口座へ送金されますようお願いします。(※準地区で取りまとめを行った報告書は各 MD 事務局に速やかに集結し報告監査がスムーズに行われるよう整えておく)
34. 各クラブにおいてすでに年間の継続アクティビティや、新規の奉仕事業計画、地区統一アクティビティ等、クラブ予算の計画が行われていることと思います。ライオンズクラブアラート委員会は、緊急災害時支援金としてすぐに拠出できますよう各クラブに予算化をお願いしているところではありますが実際には難しいクラブもあることと思いますが、ライオンズスローガン、Liberty、Intelligence、Our Nation's Safety「自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる」モットーは We Serve「われわれは奉仕する」を踏まえ会員皆様から被災地への支援として期日期间を設けず年間を通して受け付けますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
35. 各 MD での集計表は、全国統一した方がよいのではないか。
36. 台風 19 号緊急支援金の使途報告、MD330・332・333・334 の使用使途一覧表の取りまとめが終了し、7 月 15 日、一般社団法人日本ライオンズでの監査を受けることを報告事項といたします。
37. その他、日本ライオンズ・アラートチーム（東西統括リーダー、MD 班長）の顔写真入り名刺を作成いたします、なお名刺作成は、一般社団法人日本ライオンズより作成されます。
38. まとめ、
- 1、被災地より具体的な支援物資（アイテム）、数量、何時ごろまで等を被災地域 MD 議長にて集約。
 - 2、一般社団法人日本ライオンズ・アラート委員会がそれを元に具体的な要請を各 MD 議長経由で各地区ガバナーに要請を行う。
 - 3、一般社団法人日本ライオンズ・アラート委員会が全国のコントロールセンターになる事が責務。
 - 4、クラブ to クラブの熱い友情に関しての支援については何人も関与は出来ない。
 - 5、我々のミッション、一般社団法人日本ライオンズ・アラート委員会は、ライオンズクラブ国際協会と言う大きな組織の一つのチームであるがためプロトコルは重要視し、議長、ガバナーの系統は守るべきである。

以上

議事録作成人：MD332 班長 山下里美